



# ばあちゃんちの パスポート

絵：名瀬小学校児童

奄美群島日本復帰70周年メモリアル事業  
「語り継ぐ」～次世代へ～



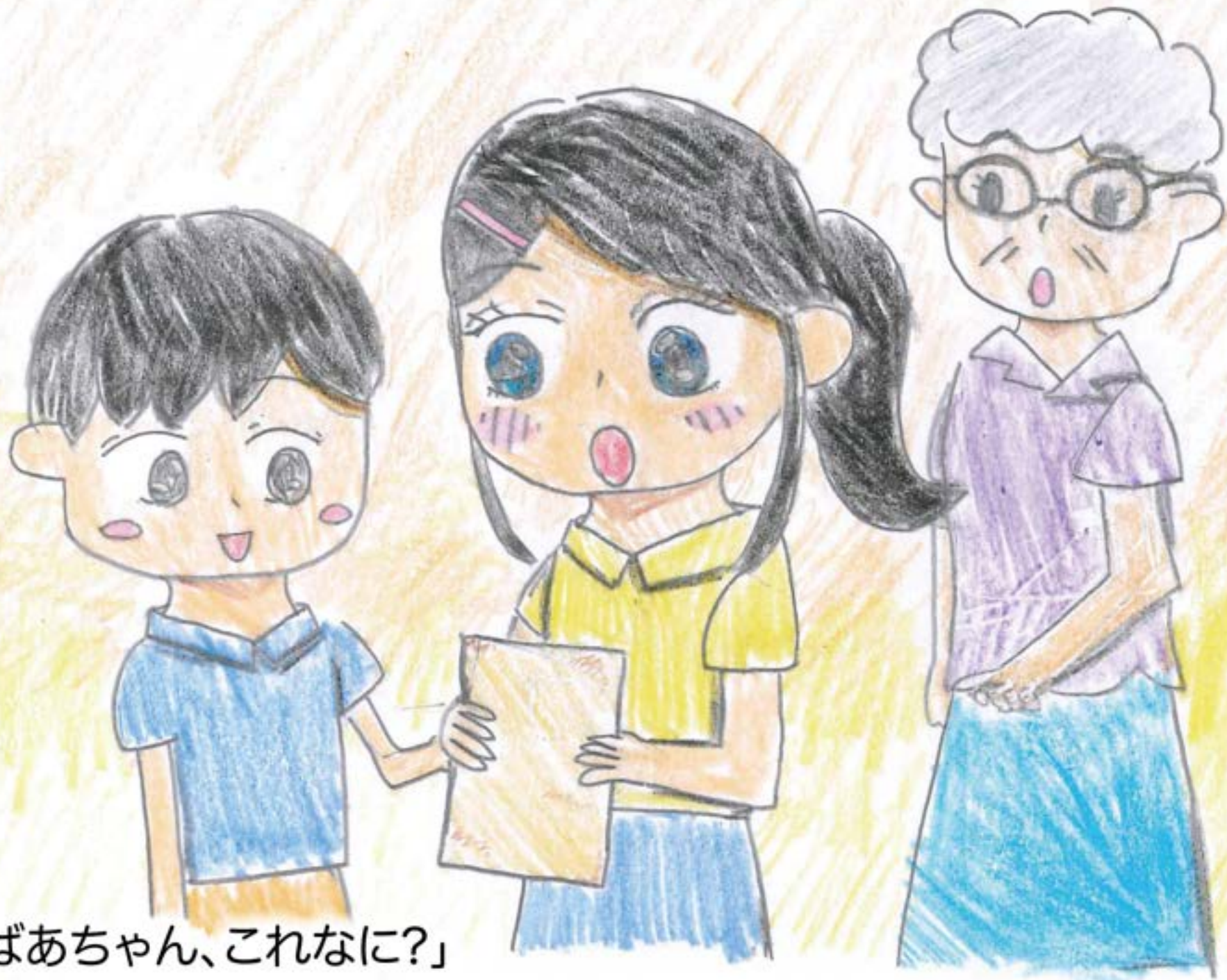




この絵本は名瀬小学校児童のみなさんといっしょに作成しました。



ある日、いずみとのぼるの<sup>きょうだい</sup>姉弟は、  
ばあちゃんの家で、<sup>いえ</sup>古い<sup>ふる</sup>パスポートをみつけた。



「ばあちゃん、これなに？」

「うりいや、むかし<sup>ふる</sup>ぬ古かんパスポートど。わん<sup>にい</sup>兄ぬむんど。」

(これはね、むかしの古いパスポートだよ。わたしのお兄さんのものよ。)



「すご〜い!

ばあちゃんの <sup>にい</sup>兄ちゃんは <sup>がいく</sup>外国へいったの?」



This is to certify that Mr. Goyehane Kudo, A Resident of Japan, whose photograph and description appear hereon is authorized to travel from the Ryukyu Islands to Japan, for the purpose of visiting

Description  
Permanent Domicile Kase-city, Oshima-gun  
Date of Birth 30 June, 1923  
Place of Birth Kosai, Oshima-gun



「あなんど むかしや <sup>とうきょう おおさか</sup>シマらが 東京 大阪 ちわたりゆん とうきいや

( <sup>いいや</sup>昔はね、 <sup>島から</sup>東京や大阪 <sup>に</sup>わたる <sup>時には、</sup> )

パスポートぬ いりゆたんちよ。」

(パスポートが 必要だったんだ。)

「ええ! いまはパスポートっちいらんよね。」

「うがしじゃやあー わんが いなさりんや <sup>にほん せんそう</sup>日本ぬ 戦争し

( <sup>そうだね、</sup> <sup>わたしが</sup>子どもころ、 <sup>日本は</sup>戦争をして )

アメリカち めえーてい シマや アメリカ <sup>ゆう</sup>世 あたんど。」

( <sup>アメリカに</sup>負けて <sup>島は</sup>アメリカ <sup>世に</sup>なったんだ。 )



ふたりはおどろいた。じぶんたちの すんでいるこの島が、  
むかしは アメリカにおさめられていたって？  
だっていまじゃ、そんなようすはどこにもない。  
するとばあちゃんがいった。



しま れきし  
「島ぬ 歴史ば しらぶていに。」

(島の 歴史を しらべてごらん。)

わんが いなさりんや しま 島や

(わたしが 子どものころ 島が)

きゃしゃんくとうぬ あたんがぬ

(どんなようす だったか)

しらぶいりば わかていきゅん はずいじゃが。」

(しらべれば わかってくる はずだよ。)







<sup>しま</sup> <sup>れきし</sup>  
「島の歴史っち、どうやってしらべたらいいの？」

<sup>がっこう</sup> <sup>きょうかしょ</sup> <sup>しま</sup>  
だって学校の教科書には、島についてくわしいことはのっていない。

<sup>としょかん</sup> <sup>はくぶつかん</sup>  
「図書館と博物館にいこう。

むかしのことがわかる てがかりや、<sup>ほん</sup>本なんかがあるかも。」



いずみとのぼるは、さっそく <sup>しま としょかん</sup> 島の図書館へ いったみた。

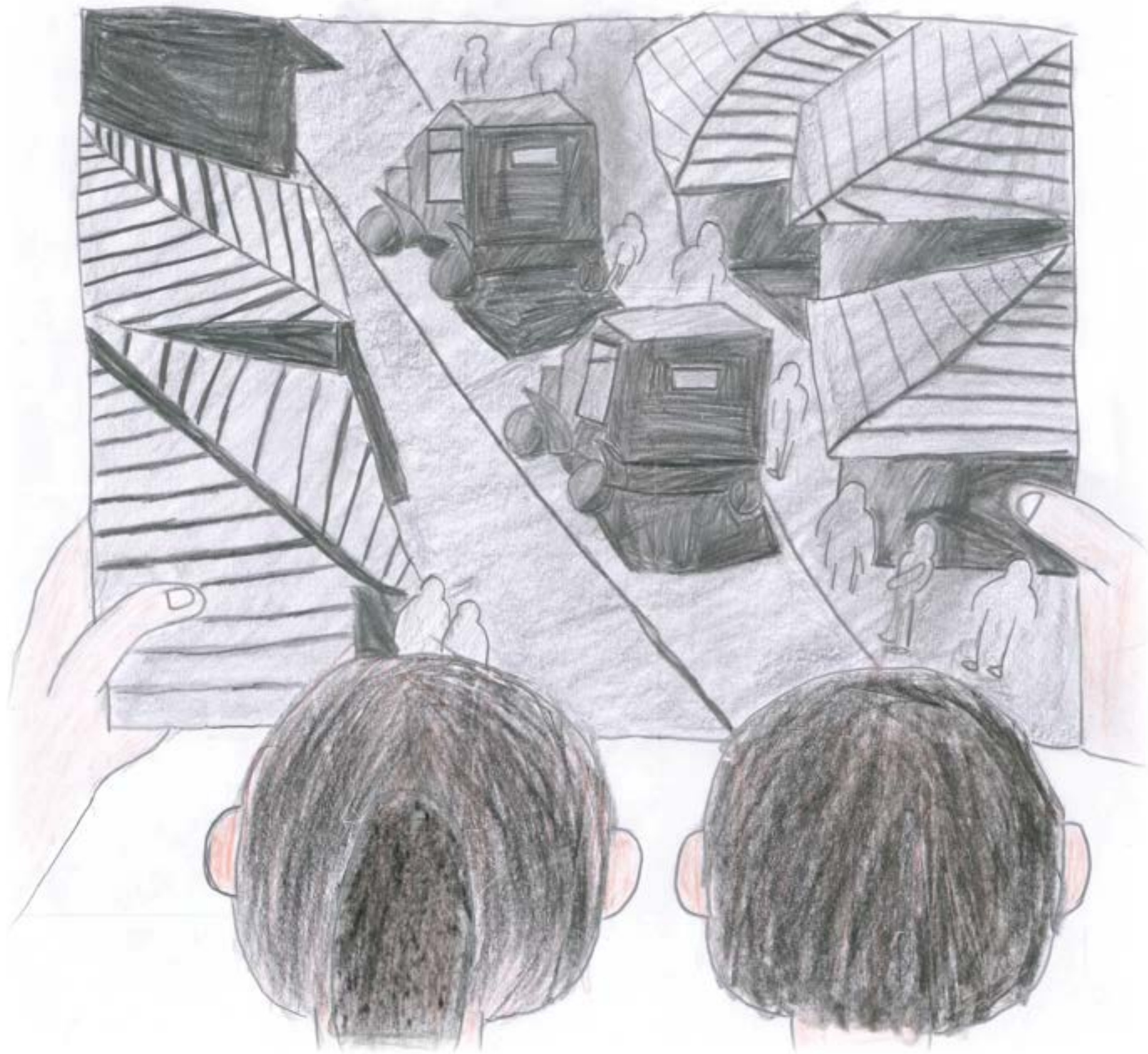


<sup>しゃしんしゅう</sup> 「むかしの 写真集があるよ。」

「みて。これ、<sup>しま</sup> 島が <sup>ぐん</sup> アメリカ軍に おさめられていたころの <sup>しゃしん</sup> 写真だ！」

「ほんとうに <sup>ひと</sup> アメリカの人が、<sup>しま</sup> 島に いたんだね。」





「この写真、<sup>しゃしん</sup>車が<sup>くるま</sup>道路の<sup>どうろ</sup>右がわを<sup>みぎ</sup>走ってるよ。いまと<sup>はんたい</sup>反対だ!

アメリカでは<sup>くるま</sup>車が<sup>みぎ</sup>右がわを<sup>はし</sup>走るっちきいたことがあるよ。」

<sup>しま</sup>「島が<sup>にほん</sup>日本に<sup>ふっき</sup>復帰してから、<sup>くるま</sup>車は<sup>ひだり</sup>いまの<sup>つうこう</sup>左がわ通行になったんだね。」





せんご がっこう しゃしん  
「これ 戦後の 学校の写真じゃない？」

こや こうしゃ  
「ちいさな小屋みたい。いまは りっぱな校舎になったんだね。」

きょうかしょ がっこう せんせい くるう か  
「教科書もなく、学校の先生たちも 苦労したっち 書いてある。」



しま はくぶつかん  
島の博物館にも いったみた。

「みて！ シマが アメリカ軍に おさめられていたころの、 お金<sup>かね</sup>が てんじしてある。

かね もじ えいご しま えいご はな  
お金の文字が英語だね。むかしの島<sup>しま</sup>っちゅは、英語を話<sup>はな</sup>してたのかな？」



「でも、ほかの手<sup>て</sup>がみとか 作文<sup>さくぶん</sup>は、日本語<sup>にほんご</sup>よ。」

「話<sup>はな</sup>すことばは 日本語<sup>にほんご</sup>なのに、日本<sup>にほん</sup>のお金<sup>かね</sup>は つかえなかったんだね。

ばあちゃん<sup>こ</sup>が子ども<sup>こ</sup>のころの 島<sup>しま</sup>っちゅは、たいへんだっただろうなあ。」



「ばあちゃんの家でみたような、パスポートも  
てんじされてる！<sup>みっこう</sup>密航する人も  
<sup>おお</sup>多かつたっち <sup>か</sup>書かれているけど、  
<sup>みっこう</sup>密航っちなに？」



「ちゃんと てつづきをしないで、<sup>ふね</sup>船の<sup>にもつ</sup>荷物に  
まぎれこんだりして、<sup>とうきょう</sup>東京や<sup>おおさか</sup>大阪に <sup>ひと</sup>いった人も いたっち。」

「ばあちゃん<sup>にい</sup>の 兄ちゃんはパスポートを もってたけど、  
てつづきしてパスポートをもらうのも、たいへんだったのかもね。」



あまみ にほん ふっき しま ひと かつどう  
「奄美が日本に復帰できるように、島の人たちはいろんな活動を  
な ぜ たかちほ じんじゃ だんじき ひがん  
していたんだね。名瀬の高千穂神社で断食悲願もしたっちょ。」



だんじき た  
「断食っちなにも食んでがまんしつづけるってこと？」

おなかがすいてたいへんだ！ぼくならぜったいがまんできないよ。」

しま にほん ふっき ねが ひと  
「そんなにしてでも、島の日本復帰の願いを、たくさんの人に  
ぼうりよく かいけつ へいわ うんどう  
つたえたかったんだね。暴力で解決しない、平和な運動だったんだ。」



「これも復帰運動で、たくさん人があつまって  
話し合いをしている写真ね。」

「えっ！この場所は名瀬小学校の校庭だ！ぼくらの学校だよ。」

「ほんとうだ。わたしたちと  
おなじ年くらいの子もたくさんいるね。」

「島の子どもたちも復帰をねがって  
手がみや作文を書いたり、話し合いに  
参加したりして、復帰運動をしてたんだね。」



せんそう れきし  
ひさんな戦争の歴史についてもまなんだ。



しま ひと  
「島でも、たくさんの方が  
せんそう  
戦争にまきこまれたんだね。」



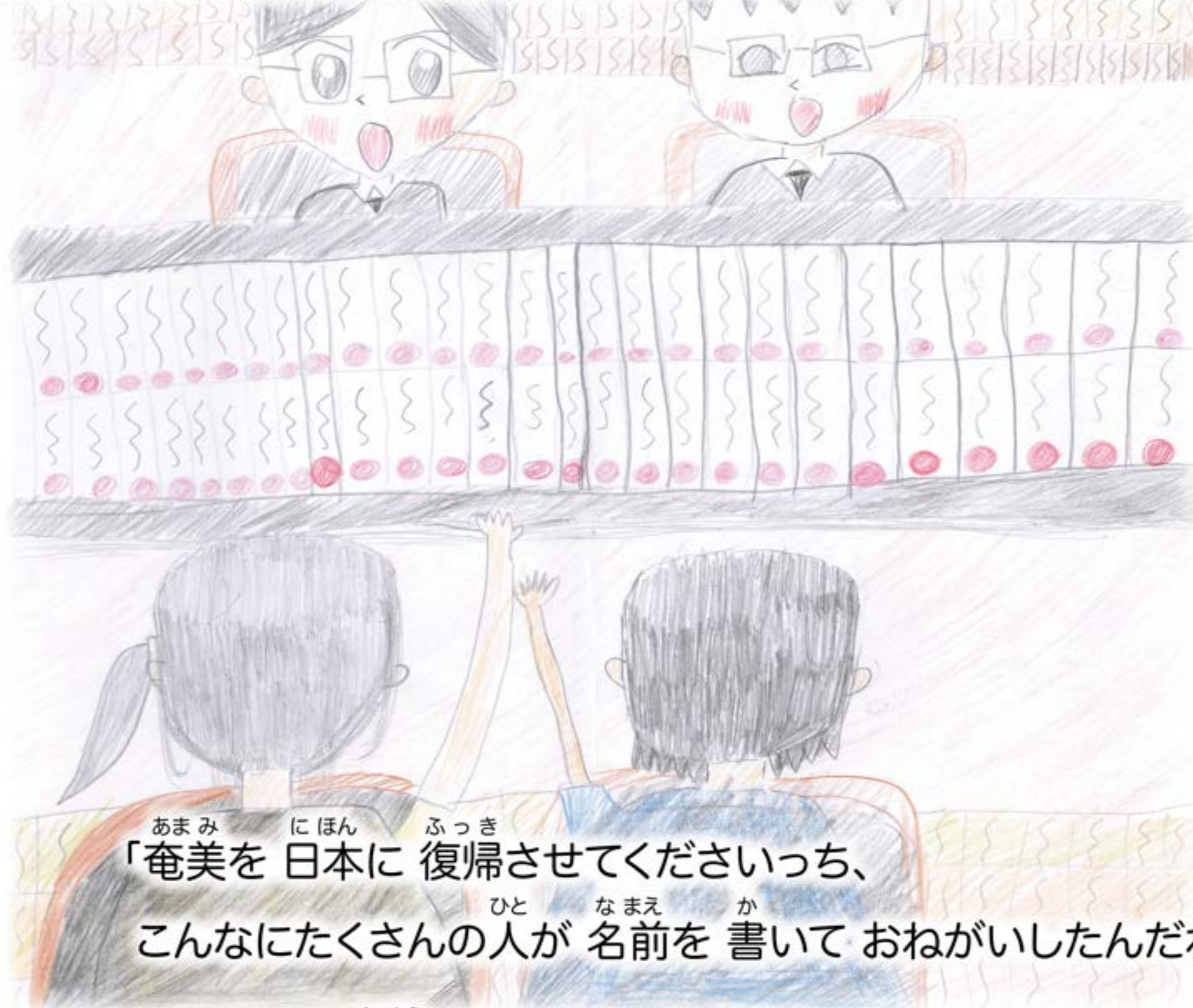
せんそう しま ぐん  
「戦争さえなければ、島がアメリカ軍に  
とられることもなかったかもやあ。」



はくぶつかん ひと  
博物館の人が とくべつに、

あまみ ひと にほん ふっき  
奄美の人たちが 日本への 復帰を ねがって あつめた

あまみ ぐんとう にほん ふっき せいがんしゃ しょめいぼ  
「奄美群島日本復帰請願者署名簿」を みせてくれた。



あまみ にほん ふっき  
「奄美を 日本に 復帰させてくださいっち、

ひと なまえ か  
こんなにたくさんの方が 名前を 書いて おねがいたんだね。」

なまえ  
「あげ？ この名前、みおぼえがあるよ。」



「ばあちゃんの<sup>にい</sup>兄ちゃんよ! あのパスポートでみた<sup>なまえ</sup>名前といっしょ~。」



「ばあちゃんの<sup>にい</sup>兄ちゃんもここに<sup>なまえ</sup>名前を<sup>か</sup>書いて、  
<sup>あまみ</sup>奄美を<sup>にほん</sup>日本に<sup>ふっき</sup>復帰させてくださいっち、いっしょにおねがいたんだ。」

「その時代の<sup>しま</sup>島<sup>じだい</sup>つちゅががんばったから、  
<sup>あまみ</sup>奄美は<sup>にほん</sup>日本に<sup>ふっき</sup>復帰することができたっちことね。」



あまみ にほん ふっき  
「奄美の日本復帰が じつげんしたのは

しょうわ ねん ねん がつ にち  
昭和28年（1953年）の 12月25日っち。

ふっき しま いわ しゃしん  
復帰の ねがいが かなって、島っちゅが お祝いしている 写真がある。」

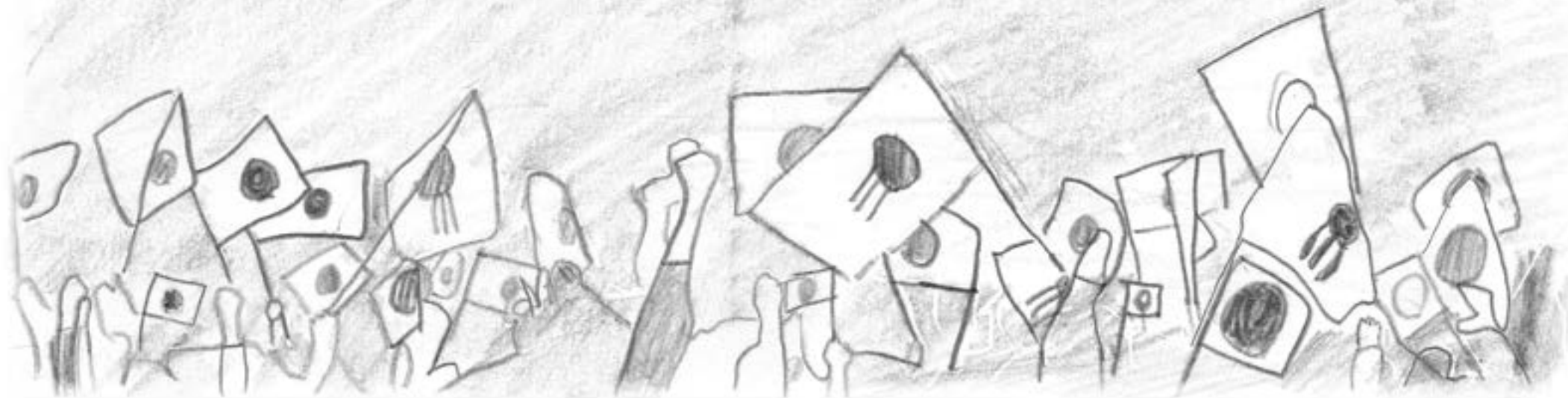


いわ ひこうき  
「お祝いの 飛行機が とんできたっち!

ひと ひ まる こっき  
たくさんの方が 日の丸の 国旗をふってるや。

ひ とうきょう おおさか  
この日から 東京や大阪へ いくのに、

もう パスポートは いらんくなったって ことだもんね。」





いずみと のぼるは、<sup>としょかん</sup>図書館や <sup>はくぶつかん</sup>博物館でしらべたこと、  
わかったことをばあちゃんにほうこくした。

<sup>はくぶつかん</sup>博物館でみた「<sup>あまみ ぐんとう にほん ふっき せいがんしゃ しょめいぼ</sup>奄美群島日本復帰請願者署名簿」に、  
<sup>にい</sup>ばあちゃんのお兄さんの<sup>なまえ</sup>名前があったこともつたえた。



「むかしのことをしらべるっち、とってもたいへんだったよ。」

「でも<sup>とうじ</sup>当時の<sup>しま</sup>島っちゅの<sup>どりよく</sup>努力が、<sup>しま</sup>いまの島にすむ  
わたしたちにつながっているっちことがわかった。」



ばあちゃんはとってもよろこんで、ふたりに<sup>い</sup>言った。

「たありんとうとも、いいだっかしらぶいたや。

(ふたりとも、<sup>よく</sup> しらべたね。)

<sup>せんそう</sup>  
戦争ぬあとう シマヤ

(戦争の あと 島は)

むーる まずしかあたんとお。

(とっても まずしくなった。)



「がしゅんから わんぬ <sup>にい</sup>兄やくん <sup>で</sup>パスポートとう 出かせぎ いじやんど。

(だから <sup>わたしのお兄さんはこの</sup> <sup>パスポートで</sup> <sup>出かせぎに</sup> <sup>いったんだ。)</sup>

うにんらが <sup>にい</sup>兄とうや <sup>あ</sup>会ゆんくとうや ねんたん じゃがや。

(それから <sup>お兄さんとは</sup> <sup>会えることは</sup> <sup>なくなったん</sup> <sup>だけどね。)</sup>

うりらが <sup>にい</sup>兄ぬ <sup>なまえ</sup>名前ば とうむていくるてい ほうらかど。」

(ふたりが <sup>お兄さんの</sup> <sup>名前を</sup> <sup>みつけてくれて</sup> <sup>うれしいよ。)</sup>



それからいずみとのぼるは、ばあちゃんといっしょに

<sup>な</sup> <sup>ぜ</sup> <sup>やま</sup>  
名瀬のおがみ山にのぼった。

<sup>やま</sup> <sup>こうえん</sup> <sup>あまみ</sup> <sup>にほん</sup> <sup>ふっき</sup> <sup>いわ</sup> <sup>きねんひ</sup>  
おがみ山の公園には、奄美の日本復帰を祝う記念碑がたっている。





「<sup>ふっき</sup>復帰しゃん <sup>ひ</sup>日やよ、<sup>ぎょうれつ</sup>ようえ ちょうちん行列が あたんど。

(復帰した 日には、 お祝いの ちょうちん行列が あってね。)

ぜんぶとう <sup>て</sup>手に ちょうちんば むち むる ほうらしゃど。

(みんなで 手に ちょうちんを もって とっても うれしかったよ。)

いっばいぬ ちょうちんぬ はがりや きよらさたど。


(たくさんの ちょうちんの あかりが きれいだった。)

<sup>こうけい</sup>あん光景や たありにだかにしとうらししゃかや。」

(あの光景を ふたりにも 見せてあげたいねえ。)







やま さんちょう  
おがみ山の 山頂にとうちやくし、

なぜ  
名瀬のまちを みわたしながら、ばあちゃんが <sup>い</sup>言った。

せんそう なぜ くうしゅう  
「戦争とう くん名瀬だか 空襲におーていや。」

(戦争で この名瀬も 空襲に あってね。)

や のはら  
まちが 焼け野原にし なたんちょや。

(まちが 焼け野原のように なったよ。)

あん うとうるさん うむいや なまいらんど。

(あんな 怖い 思いは もう たくさんだ。)

せんそう にど  
戦争ち いうむんな 二度とう あていや いかんどうや。」

(戦争なんてものは 二度と あっては いけないよ。)



「いずみ、のぼる、たありいや「<sup>へいわ</sup>平和」ち

(いずみ、のぼる、ふたりは「平和」って)

きゃしゃんとうちおもゆんにゃ？」ばあちゃんがふたりにきいた。

(どんなことだと おもう?)



<sup>とも</sup>「友だちと、けんかせずにたくさんあそぶこと！」

「おいしいものおなかいっぱい<sup>た</sup>食べることかなあ。」



「ばあちゃんにとっての <sup>へいわ</sup> 平和っちは、どんなの？」

こんどはふたりが、ばあちゃんにたずねた。



「がしじやや、わんにとうていぬ <sup>へいわ</sup> 平和はや…。」

( そうね、 わたしに とっての 平和はね…。 )








それからいずみとのぼるとばあちゃんは、  
なぜしょうがっこう いしだん  
名瀬小学校の石段にすわって、たくさんたくさん はなし話をした。  
ばあちゃんが こ子どもころの おも思い出や、  
ばあちゃんのお兄さんのこと、にい家族の かぞくこと。  
ひ日がくれるまで、 はなし話をした。





あまみ そら あか ほし  
奄美の空には、明るい星たちがまたたきはじめていた。





## 奄美群島日本復帰へのあゆみ（年表）

昭和16年（1941）		11月	名瀬市で北部南西諸島復興博覧会を開催
12月8日	太平洋戦争（第二次世界大戦）が始まる	昭和23年（1948）	
昭和20年（1945）		4月1日	教育制度「六・三・三制」実施、国民学校を小学校に
3月1日	名瀬港でルソン号が沈む（日本本土に行けなくなる）	6月19日	深佐源三、森田忠光の2教師、教科書資材収集のため金十丸で本土へ密航（金十丸教科書密航事件）
4月20日	名瀬大空襲、火災で市街地の90%焼失		
8月6日	赤木名空襲で40名死亡	7月24日	通貨を軍票B円に決定（第二次通貨交換）
8月15日	太平洋戦争が終わる	8月	臨時北部南西諸島政庁内に奄美博物館図書室設置
昭和21年（1946）		昭和24年（1949）	
2月2日	北緯30度以南のトカラ列島・奄美群島・沖縄が、本土から行政分離（二・二宣言）	4月29日	食糧価格の3倍値上げを発表
		6月30日	奄美博物館開館（館長・大重栄寛政庁文教部長）
3月13日	大島支庁に「北部南西諸島米軍軍政本部」開設	7月8日	食糧問題群民大会、食糧衣料価格値下げなど決める
3月18日	日本本土との行き来禁止、奄美への引き揚げ中止	7月20日	市町村長会、食糧問題を米軍政府に訴える
3月20日	米軍政府の指示で豊島至氏が支庁長になる	昭和25年（1950）	
7月1日	名瀬市制施行で初代市長に加世田隆がなる	1月12日	名瀬市内14団体発起で郡民大会
7月15日	奄美群島内の貨幣を軍票B円に統一	2月17日	宮崎県大島町の青年団から奄美の市町村長たちに復帰署名の開始など奄美の復帰アピール届く
10月3日	大島支庁を「臨時北部南西諸島政庁」と改称し、支庁長を知事、次長を副知事と改称	3月	東京奄美学生会が奄美日本復帰の署名運動開始
		5月29日	川上嘉氏、参院選の政見演説で奄美復帰を強調
昭和22年（1947）		7月1日	北部南西諸島軍政府と改称
8月	市町村長会、日本復帰の願いを米軍政官に伝える	10月22日	群島知事選、中江實孝氏当選
8月9日	ラブリー米軍政官、日本復帰説はデマと報告	11月15日	全国奄美連合総本部が「奄美大島群島本国復帰請願」をマッカーサー最高司令官に提出
9月10日	私設市町村長会、復帰問題決議		
9月20日	政庁知事・豊島至氏、出張先の沖永良部島で急死。26日、政庁知事に中江實孝副知事となる	11月25日	奄美群島政府設置（副知事に大津鐵治氏）







昭和26年(1951)		10月4日	沖永良部・与論の2島分離返還反対町民総決起大会
2月14日	奄美大島日本復帰協議会結成、議長に泉芳朗氏	10月15日	二島分離抗議郡民大会を名瀬小校庭で開催
2月19日	復帰請願署名運動展開	10月23日	重成格鹿児島県知事、「実質復帰」方策など調査で奄美大島入り、名瀬小で歓迎復帰郡民大会
4月10日	復帰署名終わる、14歳以上の住民の99.8%署名		
7月10日	ラジオニュースで対日講和条約草案発表	11月1日	和泊、知名、与論の3町村長、岡崎外相と会見、血書や署名簿を渡し「全域復帰」を陳情
7月13日	名瀬市民総決起大会でプラカード撤去命令		
7月19日	名瀬小で郡民総決起大会、「日本復帰の歌」発表(作詞・久野藤盛、作曲・静忠義)	11月17日	第2次署名活動終わる
8月1日	泉芳朗議長、名瀬の高千穂神社で復帰祈願断食(5日)	11月24日	第2次署名録提出
8月16日	対日講和条約最終草案発表、名瀬市などで断食祈願	昭和28年(1953)	
9月8日	対日講和条約調印、第3条で北緯29度以南の奄美・沖縄など米軍政下に置かれる	4月28日	対日講和条約発効、奄美群島「痛恨の日」
12月5日	トカラ列島7島の日本返還決まる	8月8日	ダレス米国务長官、奄美群島返還を声明、「沖縄・小笠原についてはこれまで通り」(ダレス声明)
昭和27年(1952)		8月9日	名瀬小校庭でダレス声明感謝郡民大会
1月10日	大島郡三島村発足	10月6日	復帰祝賀の歌に「朝はあけたり」発表(作詞・村山家國、作曲・山田耕作)
3月27日	名瀬小校庭で奄美群島政府解庁式	12月17日	奄美返還、12月25日確定
4月1日	琉球政府発足	12月24日	18時56分、外務省で奄美群島返還の日米協定調印 奄美地方庁廃庁式
4月28日	対日講和条約発効、第2次復帰署名活動始まる		
5月24日	復帰協議会、運営資金を貯めるためバッジ売り出す	12月25日	奄美群島日本に復帰 鹿児島県大島支庁開庁、重成知事、上田支庁長名瀬入り、午後から名瀬小校庭で祝賀式典、夜提灯行列
9月16日	名瀬市長に復帰協議会議長の泉芳朗当選		
9月22日	琉球政府奄美地方庁を設置、庁長に沖野友栄氏		
9月27日	沖永良部、与論両島は復帰から除外の情報伝わる	12月26日	復帰祝賀仮装行列
9月28日	名瀬小で完全日本復帰促進大平和祭	12月27日	安藤国务大臣迎え、名瀬小校庭で復帰記念祝賀式典





奄美群島日本復帰 70 周年メモリアル事業

創作絵本「ばあちゃんちのパスポート」

挿絵協力児童一覧

満尾	愛紗	西本	利実菜
井上	花	山下	胡桃
白濱	ひなの	池田	笑海里
児島	みなも	盛山	凜空
盛山	愛唯	小野寺	心
大重	杏奈	田畑	璃奈
日高	結翔	玉城	美緒
坪倉	琴	中原	丈
中里	慎太郎	中江	桃子
正野	姫星	川上	瑞葉
汾陽	優依	川元	光翠
		上原	蒼空







## ばあちゃんちのパスポート

編集・発行 奄美市メモリアル事業実行委員会  
絵 名瀬小学校児童  
発行日 2023年12月25日 第1刷発行  
印刷 奄美共同印刷  
〒894-0021 鹿児島県奄美市名瀬伊津部町 21-14